

混合バレーボール世界大会で優勝

水上花野さん (葛飾区新宿)

水上さんは、バレーボールの強豪校である共栄学園高校(葛飾区お花茶屋)の女子バレーボール部で卒業まで活動し、大学生活で競技から離れた時期に混合バレーボールに出会った。小学生の時に所属していたクラブチームの先輩から助っ人を頼まれてビーチバレーの大会に出場したこと

がきっかけだ。間を空けずして混合バレーボールの大会にも参加しながらチーム「Chip&Dee bu」は今年2月の「日本混合バレーボール選手権大会」で4連覇を果たし、選手たちは最高峰の大会となる「Nations Cup」で、日本混合バレーボール連盟が率いる日本代表の中心となった。

水上さんによると、日本代表は出場した10チームの中で平均身長が最も低く、体格的条件では圧倒的に不利だったという。しかし、外国人の大きな動きに対してスピード感のあるプレーを展開し、つなぎの良さや精度の高いレシーブなど技術の繊細さで勝利を確実につかんでいた。特に予選で戦ったノヴォシビルスクチームとの対戦では、3セット先取のうち2セットを

ロシア・ノヴォシビルスクで開催された混合6人制バレーボールの世界大会「Nations Cup Volleyball mixed 4+2大会」(5月13日-18日)に日本代表チームの一員として出場した水上花野さん(25)。体格差のある外国人選手を相手にチームは世界一の栄冠を勝ち取った。

相手に取られ24対22まで追い詰められながら最後に逆転する劇的な展開を迎えた。

普段は亀有信用金庫の支店に勤務しながら、週末に混合、女子、ビーチバレーなどの大会に参加する水上さん。「高校バレーは卒業時に楽しさを見失っていたが、ロシアでの大会で改めて競技の面白さを感じる事ができた。何年やっても勉強しなくては」と話していた。



準決勝のポーランド戦で相手チームと記念撮影する日本代表(前列右端が水上さん)。続く決勝戦でロシアに勝利した

ロシアで開催した「Nations Cup」に出場した水上さん。158cmの身長は日本代表チーム内でも最も低かったというが、持ち前のレシーブ力を発揮しチームの優勝に貢献した